

駆け抜けた 181 日 in ロンドン

北海道教育大学札幌校

言語社会教育専攻 英語教育分野

3 年目 中瀬健汰

留学先：ロンドン大学 アジア・アフリカ学院 ELAS コース

私はロンドン大学アジア・アフリカ学院 (SOAS) の ELAS コースという英語の基礎能力を育成するコースで 6 ヶ月間 (2 terms) 学習をしていました。授業の種類や内容、時間数などは他の方の体験記や大学のホームページで調べればいくらでも見ることができるのでこの報告書では行った人にしかわからないことをいろいろと書いていきたいと思えます。

◎イギリス留学をして (SOAS で学習して) 良かったと感じた点

①英語力の向上に最適

私は高等学校の英語教員になることを志望していますが、それに伴い自らの英語力の底上げが必要だとつくづく感じていました。ELAS コースの授業では 4 技能すべて学習が可能で、とにかく英語漬けの授業になるので、成長の良い機会になりました。このコースでは Academic English と呼ばれる、いわゆる正式な英語でエッセイの基本的な書き方や、プレゼンテーションの効果的なやり方などを学ぶことができたので、このコースで学習することができてよかったです。また、SOAS の日本語学科の生徒と交流する機会が多く設けられているため、そこで日本語を英語で教えたり、課題で分からないところを教えてもらったりと、自然と英語が身につく環境も多くありました。

②多国籍国家である

イギリス (特にロンドン) には日本からは想像がつかないくらい多様な人種、文化を持った人々がいます。地下鉄に乗ってもイギリス人を見つけるのと同じくらい簡単に他の国の人がいます。つまり、SOAS にもそれが言えて、たくさんの背景を持つ人たちと交流することができました。授業内ではディスカッションをすることが多くありましたが、その度に自分の知らなかった他文化に驚き、学ぶ日々でした。この経験はイギリスならではの経験だったと思います。

③学習環境が充実している

これは SOAS に限ったことではないと思いますが、イギリスの大学の学習環境はかなり水準が高いと思いました。まず、図書館の広さと蔵書の数。学習スペースがすべて埋まるには何人いればいいのだろうかと思うくらいの大きさでした。営業時間も長く、Wi-Fi も完備されており、学習するにはもってこいの環境だと思います。さらに、オンラインシステムの安定性。授業で必要なプリントや課題の提示などをインターネット上でやり取りするのは当たり前で、効率重視、非常に先進的だと感じました。(まれにエラーなどはあり

ましたが…) このように、学習環境はかなり恵まれていたと思います。

④付近に国がたくさんある

僕はこれが一番驚いたことでしたが、ヨーロッパ諸国はLCCが非常に発達しており、素早く、そして安く移動できます。例えば日本からイタリアに行こうと思ったら長い移動時間と大量のお金がかかります。しかし、ロンドンからであれば日帰りです。航空券は往復で1万円しません。もし、ヨーロッパに興味があるのであればロンドンで英語勉強しながら観光をして文化に触れるのもよいかもしれません。

◎イギリス留学をして（SOASで学習して）良くなかったと感じた点

①英語を第一言語としている人が少なかったこと

アジア・アフリカ学院という名前だけあって、アジアやアフリカから来ている生徒が多かったように思います。何が障害になったかという点、授業などで交流をする際、英語で会話はしているが相手の英語がネイティブの発音ではないため、あまり勉強にならなかったということです。もちろん英語で会話することで、自分のスピーキング力を磨くことにはつながりますが、相手の発音がお世辞にも参考になるものではないことが多く、少し苦労しました。（聞き取れないことさえありました。）しかし、先生は基本的にクイーンズイングリッシュで最高級の英語であったため、そこは非常に勉強になりました。

②金銭的な障害

ステレオタイプのようにイギリスは物価が高いと言われますが、この文脈にはすこし背景があるように感じました。まず、イギリスで働き収入を得ている人にとって、物価は特に問題になりません。収入をポンドで受け取るわけですので、当然の話です。しかしながら、一時的に滞在する人にとっては厳しいものになります。つまり、こちらで用意したお金（円）を使ってイギリスで生活をする留学生にとっては非常に金銭的な障害があるように思います。特に家賃と交通費は必要経費とは理解しつつも毎月の出費の大きな部分を占めていました。それぐらい高いです。また、よく“イギリスのご飯はまずい”と言われるがちですが、これは短期滞在（旅行など）の人たちが日本の感覚で値段と料理を照らし合わせるから言われるようになったように思います。“人並みの料金で食べるイギリスのご飯はまずい”というのが正しいと思います。何が言いたいかという点、留學生活であれば自炊は必須であるということです。日本のように惣菜が豊富なわけでもありませんし、外食なんて言うのは特別な日以外はしません。僕は出発前からしっかりと自炊をすると心に決めて滞在期間の9割以上の日数で自炊をしていましたが、それでもやりくりは大変でした。

以上のように長々とロンドン留学を通してよかったことと悪かったことを記してきました。総括して僕にとってこの半年間の留学は非常に良い経験になりました。もちろん英語

力を伸ばすことを目的として出発しましたが、終わってみればたくさんの人に出会い、たくさんの文化に触れ、人として大きく成長することができました。“留学に行った人で後悔した人はいない”という言葉がありますが、この言葉の意味は留学しないとわからないなと思いましたが、この言葉は間違いないです。もし留学をしようか迷っている人がいれば、この言葉を信じて大きな一歩を踏み出してみてください。そして留学が終わった時には大きく成長した自分がいるはずです。

